
平和な日々よもう一度

貧乏人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平和な日々よう一度

【Nコード】

N3800F

【作者名】

貧乏人

【あらすじ】

平和な日々を過ごしていた主人公。五月五日はある日、何故か軍用ヘリで拉致された。其処で待っていた物とは！？1%のラブと9%のコメディで送る、超バカ&ラブコメディで四コマみたいにしてみました。

第一話、主人公って何かと不幸だよね（前書き）

この話は、モバゲで書いている話が元なんですけど、まあ読んで笑ってくれると幸いです。

第一話、主人公って何かと不幸だよな

「とりあえず自己紹介や親友紹介など。」

俺は五月五日。
サツキイツカ

しがない高校一年生だ。

「なあ五日。俺の目はおかしくなったのか？」

と聞いてくるコイツは、まあ脇役だから紹介なくていいよね？

「いや、ちゃんと紹介をしろよ！」

いやゝこの物語、コメディーなのにつまんない話題出しても仕方ないじゃん？

「俺は今、素でお前を殺したい気分です。」

しょうがないなあ、コイツは、バカ以上。

「貴様、次にちゃんと紹介しなかったら、東京湾に沈める。」

・・・えゝ、この方こそは、俺の親友の伊吹理一君です。
イブキリイチ

気軽に、リーチと呼んであげてください。

「真実が語られる話。」

「なあ五日。俺の目はおかしくなったのか？」

いきなり何を言い出すんだよリーチ。

そんなの、知り合った時からじゃん。

「いい加減にしておいた方が身のためだぞ。それ以上なんか変な事言ってみろ、貴様は其が人生最後の言葉になるからな。」

よーしリーチの言った方を見てみよう！

やっぱ親友をバカにしちゃいけないよね！

というわけで、リーチが見ていた学校の校庭を試みる。

・
・
・

軍用ヘリが止まっていた。

「ちよつと待ったリーチ、初めてかぎかつこ使うけどさ！目を疑うどころの光景じゃないよ！？」

余りの驚きに、主人公は初めてかぎかつこを使いました。

「ちよつと待て！！其がオチとは言わせないぞ作者！！てかさつきから、此が本編見たいにしているが、本当の本編の始まり全く違うし、第一、俺のキャラ設定から違うわ！！」

いやだつて面白いと思つたし、

「つまらんわ！！」

「本当はこんな感じでした。」

「なあリーチ、やばい、俺は疲れているのか？」

「安心しろ、お前は疲れてはいない。

此は現実だ、受け止める。

俺は受け止めた。」

「いやだつて、校庭にさ、・・・軍用ヘリつて・・・。」

「まあ頑張つて現実を受け止めるんだな。おつ、人が沢山降りてきたぞ。」

ホントだ。

凄いゴツイ体つきの軍服を着た人達が降りてきた。
あれ？何故か一斉に此方を向いたぞ。

おっと？なんか此方に向かってくるんですけど？

あゝそうかリーチを捕まえに来たのか！

ガチャ。

「五月五日はコイツか？」

・・・はっ？

・・・すまん状況が読めん。

なんで俺？一応言っておくが、俺はこんな物を突きつけられるよう
な事をした覚えはない。
アサルトライフル

第一、万引きすらもやったことがないのだ。

「いや、違っ——」

「コイツが五月五日です。もうさっさと連れて行ってください。」

「リーチ貴様！！何て事を！？」

「軍人さん早くっ！コイツ、暴れるとめんどくさくなるからっ！」

「貴様！！何自分はコイツとは無縁で顔してやがる！？」

この後、俺は軍人に両脇抱えられて、引きずられながら、軍用ヘリ
に拉致された。

ここで一つ言いたいことがある。

Why？

第一話、主人公って何かと不幸だよな（後書き）

ヘイヒビあとかき劇場。

五日「ちよつと待て！？本当にこんな続けて行く気か！？」

貧乏人「いやだって、ねえ？」

リーチ「いや俺に降られても・・・。」

貧乏人「まあ本編はこんな感じで進んで行きます。」

五日「大丈夫かなあ」

あとかき。

こんにちは、貧乏人です。

高校一年です。

軽音部です。

でも正直かつこよくないです。実際キモいんじゃないかな。

自分でそう思います。

ただ老けているのわ確実です。

何故ならこの前自転車乗ってて警察に止められて防犯登録検査され
たとき何ですが、

「今から会社ですか？」

「いや高校生何ですけど・・・。」

「えっ？いつ、いや」大学生とかに見えますよ！..」

さつき、会社行くんですかって言っただじゃん。

この後家に帰って速攻自分の部屋に行き、素で泣きました（泣）

まあこんな作者ですが、暖かく見守って下さい。

第二話、主人公の幸運って女難だよね？（前書き）

ヘイビビとは、平和な日々よもう一度の略です。

あとこんなバカな物語に付き合って頂き誠にありがとうございます。

第二話、主人公の幸運って女難だよな？

「実際にこんな状況になったら嫌だよな。」

現在、俺は軍用ヘリに乗っています。

イエー！

・・・すまん、悪気はなかったんだ。

ただこの空気に耐えられなくて開き直ったんだ・・・。
だって、

「あの〜これ、どこにい——」

「——それ以上喋ってみろ、貴様の体が空を飛ぶ。」

・・・こんな感じです。

誰か助けてくれ。

「目的地到着みたいなのかな？」

ヘリが止まって、俺は目隠しをした状態で歩かされた。
なんか無性に怖い。

何でかって、そりゃ後ろからなんか冷たい棒を突きつけられてるから。

・・・凄いや、開き直れない。

目的地に到着したらしく、目隠しを外され、扉の前に立たされた。

「・・・あの――」

「入れ。なにか喋ったら腐ったザリガニを食わす。」

・・・間違っても伊勢海老みたいには食えないな。

そう思い、素直に扉を開けた。

「とりあえずツツコむところ。」

扉を開けたら、まるで桃源郷のような光景だった。（もしかしたら表現方法間違えたかも。）

そこには、自分と同じ年位の美少女が沢山いた。

とりあえずいつもの決まり文句言ってみよう！

・・・Why?

「こんなことあったらいいなあという作者の現実逃避。（本編です。）」

俺が困惑していると、中心？に座っている美少女が近づいてきた。どれくらいの美少女かというと、十人が十人振り向きそうな位だ。その美少女が口を開いた。

「拳式はいつ拳げる？」

「何の話だ！？」

第二話、主人公の幸運って女難だよね？（後書き）

ヘイヒビあとかき劇場。

五日「最早これ、小説と言えるのか？」

貧乏人「えっ？言えるんじゃない？」

五日「絶対に言えないだろ・・・。」

あとかき。

どうも、貧乏人です。

次回も楽しんで下さい。

第三話、女難とか羨ましいんだよ畜生！！全ての主人公死んでしまえ！！（前書

感想下さい。

そして感想ありがとう。

さらに一日目で観覧数、500近いのは驚きです。

本当にこんな小説に時間を割いていただきありがとうございます。

第三話、女難とか羨ましいんだよ畜生！！全ての主人公死んでしまえ！！

「こんなことあったらいいなあという作者の現実逃避。（パート2）」

「という訳で、私と結婚してください。」

「待て待て待て、訳がわからん。という訳でとか言ってるが、全く説明されてないし、てか結婚って何！？」

「えっ？昔、約束したじゃない！！忘れたの！？」

「・・・すまん。どれくらい前だ？」

「・・・チツ。」

「今舌打ちしたよな！？絶対したよな！？もう騙されないぞ！！なに今更しまったって顔してんだよ畜生！！」

「いや前世で約束したのよ！！」

「知るかああ！！」

「本当の話。てか前回のやつ本当にあって欲しかったのか作者。」

一年前。

私はその日初めて、街に行けました。

いつもは、軍の演習などがあり、外には行けませんでしたから。

そして、街について歩いていたら怖い人達に絡まれたんです。

それで困ってました。

私はその時、手加減が出来ないので、その人達を殺してしまう恐れ

があつたので。

そしたら酒臭い息を吐きながら、やって来た人がいたんです。そしたらその酔った勢いで、その人達を蹴散らしてくれました。その後、私に街を案内してくれたりしたんです。で、その人に名を訪ねました。すると、

「俺か？俺は五月五日という。まあ覚えてくれたら嬉しいかな。」
と言ったんです。

「・・・その話本当か？」

「はい！」

やべえ、スゲー思い出せない。

一年前つていったら、丁度酒飲んで酔つてリーチとバカやった所だなあちなみに、内容はリーチと喧嘩した。

その後は覚えてない。

「だから結婚——」

「待て、そこからその選択肢はおかしいだろ。」

スタートから三段跳びでゴールつて、俺はまだ人生の墓場に行きたくないぞ。

「え〜。」

「え〜じゃない。とりあえず学校に俺を返せ。」

「やだ。」

え〜。

〔理由。〕

「なんで駄目なんだよ!!」

「だってヘリがもう行っちゃったもん。ヘリは明日戻ってくるもん。」

「そんなバカな。」

「だから私と結婚しよ?」

「D A K A R A なんて結婚になるんだよう! ? おかしいだろうが!

!」

「いいもん! 今日一日説得するから!」

・・・今日は地獄か?

ちなみにこの女性は俺と同一年で、キリシマリヨウ桐島綾というらしい。

第三話、女難とか羨ましいんだよ畜生！！全ての主人公死んでしまえ！！（後書

ヘイヒビあとがき劇場。

貧乏人「いやあ死ねよお前。」

五日「一番初めのセリフがそれか！？」

貧乏人「いやだって、プロポーズされてんのに断るとかマジ死ねよ。」

五日「じゃあお前は断らないのかよっ！」

貧乏人「当たり前だ。」

五日「ダメ人間の極みだコイツ。」

あとがき。

どうも貧乏人です。

いやあこの主人公マジ死ねよ。

実は中3の時、コクリふられました。

初めのコクリでした。

泣きました。

小説的には断らないと話が出来ないんですが、主人公マジ死んで欲しかった。

第四話、一日の出来事は色々ありすぎておぼえられない（前書き）

観覧数1000人越え有り難うございます。

誠に嬉しい限りです。

第四話 一日の出来事は色々ありすぎておぼえられない

「今日は歩いてゝ帰れない。B Y歩いて帰ろう。」

とりあえず、今日は軍基地で一日を過ごすことになった。

しかしもう夜なので、俺は寝る事にした。

「しかし今日は大変な一日だった。」

「そうだね。」

「全くだ、でつ、なんでお前がいる!？」

「お前じゃないよ、綾だよ。又はリヨウちゃん。もしくはハニーでいいよ。」

「よし綾、なんでここにいる。」

「スルーされた。しくしく。」

いい加減にしてくれ。

「だって一緒に寝るのが妻の勤めだもん。所謂初夜だね。」

「・・・お前仮にも隊長だろ、隊長らしさが微塵もないんだが。」

「だって夫の前では甘えたいもの。」

勘弁してくれい。

「次の日の朝。」

とりあえず綾を部屋から蹴飛ばし、俺は寝た。
そして朝起きると、

「・・・なんで貴様がいる。」
素でキレた。

「だって暖かそうだったから。」

「俺は暖房器具なんかか!？」

「違うよマイダーリン、キャッ」

「誰がマイダーリンだ!!ふざけんな!!へり今日来るんだろ!？」
俺は帰る!!」

「えゝ。」

「えゝじゃなあい!!」

「ベタな話。」

「本当に帰っちゃうの?」

「当たり前だ。」

俺はそう言いへりに乗り込む。

「嫌だあ!!」

「何言つても俺はか——ぐほああ!!」

・・・突進×頭突き+金的のたうち回る俺。
この痛みプライスレス。

一時間後。「今度こそ行くからな。」

「うん、じゃあまたね。」

そういつてへりに乗り込む。

「やれやれ大変だったが、楽しかったな。」

また今度会いに行こうかな。

今回は学校のことがあったし、唐突過ぎたから断っただけで本当は

少し嬉しかったのだ。

だから今度はお付き合いから始めたい。
素で美人だったし。

次の日。

「桐島綾です。よろしくお願いします。」

「ベタすぎだ!!」

学校では俺の心からの叫び声が響いたという。

第四話、一日の出来事は色々ありすぎておぼえられない（後書き）

ヘイヒビあとがき劇場。

五日「やっと本格的になったな。」

綾「そうだね。これで私たちの愛の物語が始まるねマイダーリン。」

五日「始まらないし、誰がマイダーリンだ。」

貧乏人「お前だよ。ちなみにもうそろそろ新キャラ登場で、五、六角関係位になるから頑張れ主人公。」

五日「貴様！！俺が苦境にあると知つての狼藉だな！！」

貧乏人「当たり前だ。美人の告白断る奴は万死に値する。」

五日「ふざけんな！！」

あとがき。

どうも貧乏人です。

今回は笑えましたか？

自分的には、あとがきの方が笑えました。

（ダメじゃん！！）

正直、本編よりあとがきの方が楽しいですし。

こんな奴ですが、これからもよろしくお願いします。

第五話、自宅が一番安全とは限らない。(前書き)

ズグダンズンブンゲンゲームやりて〜ww
・・・ごめん。悪気はなかったんだ。

第五話、自宅が一番安全とは限らない。

「日常とは何事もなく過ぎていくことだよワトソン君。」

綾が学校に通うようになり、俺の日常は急激な変化をとげた。

ではまず変化その1

「何故貴様がここにいる。」

「いやだって、私の家だし。」

「ここは俺の家だ！！なにその自分の家って！？ここは貴様の家じゃねえ！！」

「いやここは彼女のホームステイ先よ。」

・・・お母さん、いきなり出てこないでください。

読者が驚きます。

「て、ホームステイってなんじゃそりゃ！？」

「彼女、名前は日本人だけど、今までアメリカに住んでて、しかも両親がアメリカから日本に來れないからって、ホームステイ先を探してたの。其処でね、私がそのチラシみて、かわいい・・・じゃなかった、大変だなーって思っで、受け入れたというわけよ。」

「全く納得いかねえ！！だいたいなんだそのかわい・・・って！！思いつきし可愛いからってだけで連れてきてんじゃねえかよ！！」

「うっさいバカ息子！！こんな可愛い子が嫁ぎにきてんだから断るんじゃないよ！！」

「あんたらグルか！？」

「妹が帰ってきたよ、シスコンがつー！」

母と綾は、台所で和気藹々と。

俺は、ソファーにうつ伏せでたおれていた。

「やべえよ俺、人生の墓場に直行じゃねえかー！」
等考えていた。

ガチャ。

やべえー！！妹が帰ってきたー！！

「ただいま。・・・誰？」

妹と綾が俺の頭上で対面してる構図。

「事情説明は地獄絵図。」

妹が帰ってきて、俺は何故か正座させられた。

「で、兄さん。これはどういう事？」

「俺にもよくわから——」

「私達結婚しました。これからは義妹ね。」「ほう、兄さん。それで葬式は何時ですか？」

「待て、色々なところにツツコミを入れなければならないが、まず第一にその手に持っている包丁を置け。」

「・・・、拳式は、はなく、葬式は、のあたり、本気で俺を殺そうとしてたんだな。」

「・・・私だって兄さんのこと好きなのに。」

「？、なんか言っ たか七日？」

「なんでもない！！」

？

ちなみに妹は五月七日サツキナノカという。

第五話、自宅が一番安全とは限らない。（後書き）

ヘイヒビあとがき劇場。

五日「なあ、これノベルゲームでいったら死亡フラグしかねえんじゃない？」

貧乏人「鈍感は黙ってるよ、マジで。」

七日「そうですね、兄さんは鈍感で少しイラつきます。」

貧乏人「はは、妹に言われてやんの！！」

五日「・・・こんな嫌だ。」

あとがき。

どうも貧乏人です。

前回の「歩いて帰ろう」は、曲名です。

ポンキッキーズです。

斎藤です。

ただライブでやるのは、Bumpデスがww。

何故かというと、ひとり大好きな奴がいるんですよ。

貧乏人は、浜田省吾と、尾崎豊ですが。

なので何やるかで困ってます。

やるのは、ラフメイカーと、アルエをやるんですが、もう一つやりたいんでなんか盛り上がる曲を教えてください。

ちなみに、ガラスのブルース、才悩人応援歌などは没になりました。ということ、小説とは全く関係無い話になりましたが、これからもよろしく願います。

あと曲を教えてください。

第六話、なんか書きたくなったので書いた。(前書き)

サブタイトルの通りです。
すいません。

第六話、なんか書きたくなったので書いた。

「アル晴レタ日ノコト結婚ヲ望ム奴トノ登校前。」

俺はいま、猛烈にピンチな状況にいる。

何故なら、今時のラブコメでもやらない、ベッドに一緒に入るといふ行為を綾がして、朝までそれを気付かなかった俺に、朝に俺を起こしに来た七日が其を見てキレたという訳だ。

「で、綾さん。いい加減に兄さんから離れてください。あと兄さんはさっさと離れてください。」

「七日、俺ははな——」

「私達は愛し合っているから、そんなことでは離れられないよ。」

「ほう、兄さん。やっぱり葬式を挙げますか。」

「ちよつと待て——！さっきから俺の言葉が遮られてるのがわからないのか！？俺は離れようとしてるんだよ——！だけど、軍仕様の間接技決められてて動けないんだ——！」

そんなこんなで結局、今度の土日に俺とデートで許すということになった。

はしよりすぎたか？

だがなこれを聞いたら多分読者の皆さんが三日は眠れなくなると思うので、言わないでおこう。

ちなみに土曜日が七日とデートで、日曜日が綾ととなっている。

「学校へ行こうマックス——！」

とりあえず疲れた。

あの後、綾と一緒に学校に行く羽目になり、学校へ着いたらみんなから命をねらわれるし、先生はなんか憎しみを込めて俺を欠席扱いにするし、それを何とかしようとして、校庭100周等々。

「リーチ、俺、生きていける気がしない。」

「・・・頑張れや。」

「自宅にて。今回はかなり短いぜ。」

俺は外を眺めていた。

・・・星ってこんなにもきれいなんだな。
しみりとする。

「五日!!どこ!?!」

「兄さん!!どこいったの!!」

・・・絶望する。

第六話、なんか書きたくなったので書いた。（後書き）

ヘイヒビあとがき劇場。

五日「この回は、作者も本当に疲れているなか、書いてしまったので、ぐだぐだになってしまいました。作者も本当に反省しています。次回からはもっとメリハリなどをつけてかくらしいので、次回に期待してくれ。ちなみにあとがきは今回無しだ。」
貧乏人「すいませんでした。」

第七話、真面目な話がしたくなつたぜ。
(前書き)

新しい小説を書きたいなと思います。

第七話、真面目な話がしなくなったぜ。

「着信あり。」

「綾さん！兄さんに引つ付くのやめなさい！！」

「嫌だ！五日が大好きだもん！！」

「頼むから七日！包丁をしまってください！！あと綾はその方向に俺の腕は曲がらないたいいいいい！！？」

いつも通りの平和な日々。

これをぶち壊したのは、一本の電話だった。

トウルルルル。

「あつ、電話だ、俺が出るよ。」

そういつて、俺は二人から逃げた。

二人は未だに喧嘩している。

「はいもしもし、どちら様ですか。・・・えっ？」

「電話の主。」

電話は、綾の父親からだった。

内容は、簡単に言えば帰ってこいと、見合いをするだった。

綾は其を聞き、涙を流した。

たった一本の電話で平和な日々は崩れてしまったのだ。

「お別れの歌。」

今日、綾は帰る。

俺はその時、綾がどれ程大切な人だったのか知らなかった。
綾が帰る間際、彼女は小さな声で何かを呟いたのだった。

「彼女のいない日々。」

綾が帰り、一週間が過ぎた。

俺には、望んでいた平和な日々が帰ってきていた。
いつも通り学校に行き、いつも通りの生活。

前みたいに、誰かに追われる事もなく、本当に、平和な日常に戻った。

ある日、帰り道で立ち止まり、空を見上げていた。

そうして空を見上げていると、空から水滴が目には落ちる。

俺は今までの事を思い出し、今の自分に空いた穴が何なのかを考えた。

「・・・あぁなんだ。つまりあれだ、俺はあいつの事が・・・。」

第七話、真面目な話がしたくなっただぜ。（後書き）

ヘイヒビあとかぎ劇場。

五日「なんだこの次回最終話的な内容の話は？」

貧乏人「いや次回最終話だけど。」

五日「why？」

貧乏人「いやだって新連載始めるし、此方は潮時かなって。」

五日「そんな理由で！？」

あとかぎ。

どうも貧乏人です。

という訳で、次回でラストです。

楽しんでいただけたでしょうか？

えっ？短いつて？

まあ今度また要望があれば、四コマ風じゃなく、小説を書きますが、（うわなにこの上から目線って思ったかたすいません。）新連載の方に集中したいので、この話は次で終わりです。

最終話も見てください。

最終話、真面目過ぎて、ここだけ見たらB級映画。（前書き）

いやゝ疲れました。

最終話、真面目過ぎて、ここだけ見たらB級映画。

「走れ！五日。」

綾は今日、見合いをする。

そう七日から聞き、俺は今、東京から神奈川県までリーチと一緒にリーチのバイクで移動している。

「五日！！という風の吹き回しだ！？綾ちゃんと離れて嬉しいんじゃないのか！？」

「俺はこういう事言うキャラじゃないがな！！どうやら俺は綾の事が好きらしい！！アイツには俺の隣に居て欲しいと不覚にも思っちゃまったんだからしょうがないだろ！？」「・・・どうやら本気のようだな。」

「リーチなんだって！？」

「何でもない飛ばすぞ！！」

そして俺は綾のもとえ向かった。

〔現状確認。〕

現状確認。

後ろ、白バイ五台。

パトカー二台。

更に白バイ五台増えた。

「俺たち終われてる！？？」

「その黒のノーヘル止まりなさい！！」

「しまった！？俺がノーヘルで、速度出しすぎた！！」

「リーチの馬鹿！！どうすんだよ！！」

「お前だけでもいけ！！ここは俺がなんとかする！！」

「わかった！！死亡フラグ立ちまくりだが死ぬなよ！！」

「そう言い残し、バイクから降りて、警察等から逃げる。」

俺を警察が追おうとしたとき、一人の男が仁王立ちした。

「最終話。平和な日々ももう一度。」

ダン！！

中に入ると、着物姿の綾の姿と、見知らぬ男性がいた。

「なんだ貴様は！！」

見知らぬ男性が声を張り上げる。

「俺の名は五月五日だ。すぐにこの見合いを破談にしろいたい。」

「何をいつている！！そんなこと出来るわけがない！！」

「底のところを頼む！！」

「そう言っただけで土下座する。」

「ふざけるな！！」

見知らぬ男性は、思い切り足で俺を蹴り飛ばした。

「頼む。」

「そう言っただけでまた土下座をする。」

「これが何回も続いた。」

「見知らぬ男性は息を切らしている。」

俺は腕が折れてんじゃないのか？

ブラブラしてるし。

男は口を開く。

「何故そんなに綾がいいんだ！？」

「最初は色々とコイツが迷惑だった。意味が分からないし、コイツ
という誰かしらに追われるしな。でもいなくなつて気づいたんだ。
俺はコイツが、いや、綾が居ないと駄目なんだ。綾が隣に居て貰わ
ないと、そっちが迷惑なんだ！！綾が笑って無くちゃダメなんだよ
！！」

俺の目からは、初めて心から出た涙が流れていた。

「エピソード。」

あれから三年がたった。

綾は俺の隣にいる。

彼女はいつも、笑顔を見せて暮れている。

俺はこの笑顔を二度と無くさないようにしようと心から誓った。
今となりに居る笑顔の彼女と、これから宿る小さな命に。

f i n

最終話、真面目過ぎて、ここだけ見たらB級映画。（後書き）

ヘイヒビあとがき劇場。

五日「・・・この小説コメディーだよな。」

貧乏人「いやだって仕方ないじゃん。俺がハッピーエンド好きなんだもん。」

五日「最後まで自分勝手だったな。」

貧乏人「てへ」

五日「誉めてねえよ!!」

f i n

あとがき。

どうも貧乏人です。

ここまで読んで頂き誠にありがとうございます。

最終話に成るにつれ、ぐだぐだになったり、コメディーがなくなったりしましたが、これで一応完結です。

続きと言うか、もっと真面目に書いてほしいと思ったら、感想に、「復活希望」と最後に書いてください。

最終的に、今まで小説を書いたなかで、この作品が一番短く、そして一番人に見られた作品だったと思います。

人気だったのかな？

違うか!!（笑）

こんな作者ですが新連載の方はs fバトルラブコメディーをしようと思ってます。

では次回作会いましょう。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3800f/>

平和な日々よもう一度

2010年10月28日04時44分発行